

ワークシート1

お手伝い

「お手伝いは子どもの自立の第一歩!」

こんなことありませんか？

小学校2年生のゆかさん。今年の夏休みにはりきって決めたお手伝いは、洗濯物たたみ。夏休みのがんばり表に色をぬるのが嬉しくて、家族全員の洗濯物をきれいにたたんでくれていました。時には、たんすの中に片付けてくれることもあり、家族は大助かりでした。

ところが、2学期が始まって・・・学校から帰ってくるとすぐに出かけて行き、友だちと遊ぶのに夢中なゆかさん。家に帰ってくる時刻が遅くなり、洗濯物がたたまれないまま置いてある日が続いています。



お父さんが尋ねると、「夏休みは終わったもん。」
「だって、忙しいもん。」とお手伝いをやめてしまいそうな口ぶりです。

ワーク1

あなたが、ゆかさんの親だったら、どう対応しますか？

.....

.....

.....

.....



ワーク2

わが子の「お手伝い」について、うまくいったことや失敗したこと、心がけていることを交流しましょう。



◇他の方の意見をメモしましょう◇



今日気が付いたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか？



今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。

お手伝い効果



そもそも、子どもは、お手伝いが大好き。幼児期からお手伝いを覚えて、小学校低学年では、家族の一員として家事分担の役割を理解し始めるよ。お手伝いによって、親子の会話を深めて、たっぷり褒めることで、「できた喜び」や「やらなくてはという責任感」が芽生えるから、子どもは自分に自信をもてるよ。

お手伝いをする中で、自分なりの手順や段取りを考えて工夫し、行動に移すことができるようになるから、子どもはお手伝いで大きく成長することができるんだよ。

実践カード

ハッピー！ サンキュー！ おてっだいビンゴ



1 おてっだいをきめよう！

9つのおてっだいをきめて、ビンゴのマスの中にかきましょう。(おなじおてっだいがあってもいいです。)

名まえ



2 さあ、おてっだいをしてみよう！

おてっだいができたらいろをぬったり、○をつけたりしましょう。

おうちのひととそうだん
してきめよう。



3 ビンゴできたかな？

がんばったきみは、『おてっだいめいじん』です！

おうちの方へ
お手伝いが続けてできるように、
励ましの言葉をお願いします。

おてっだいのかんそう

おうちの方から

おてっだいがつづけてできるといいね！

お手伝いを習慣化させるための秘訣は？



決めるときは

簡単なことから始める

簡単にできる仕事から一緒に始めると、子どもが自分から進んでお手伝いをしたくなり、安心して任せることができます。

感謝の気持ちを伝える

家族全員が、「ありがとう。」「助かった。」という言葉で感謝の気持ちを伝えると、家族の役に立っているという喜びや達成感を味わうことができ、お手伝いを継続する意欲となります。



できたときは

失敗しても決して叱らない

少々のごまかしは目をつぶり、お手伝いをしている気持ちを尊重しましょう。子どもの自尊心を傷つけると自信をなくし、自分からできなくなってしまう。



できなかったときは

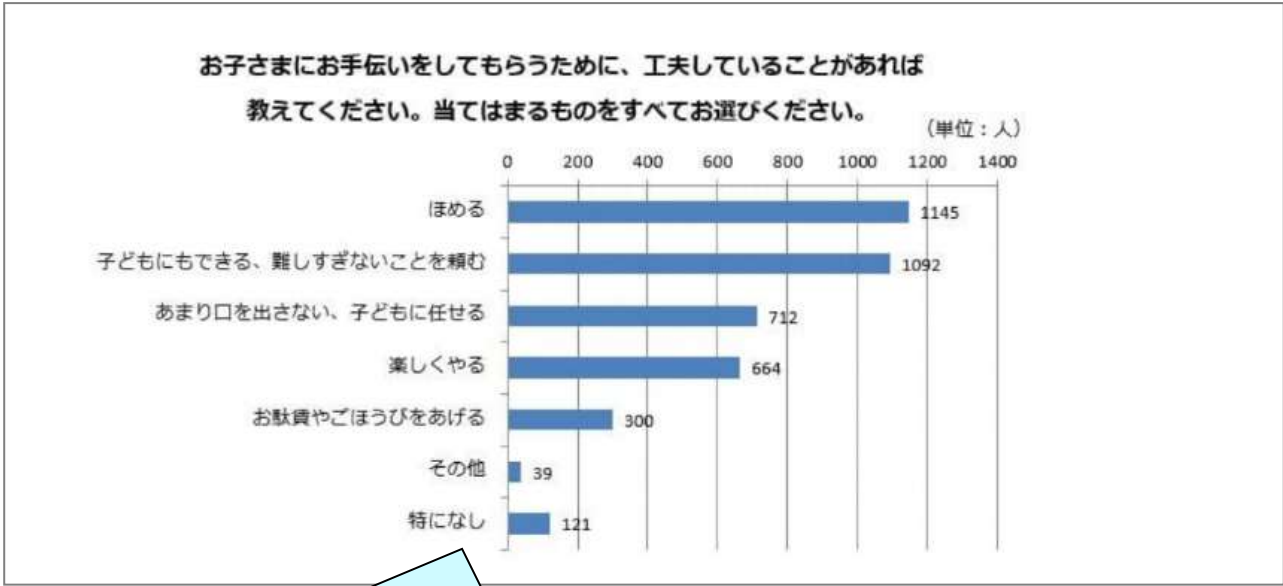


では、ここで、子どもがお手伝いをしたくなる秘訣をもう一度確認しよう！

- その1 やりたい手伝いは尊重する。
- その2 簡単にできることから始めて、任せる。
- その3 失敗しても叱らず、楽しく教える。
- その4 やり終えたら「ありがとう」「助かった」と褒めて、家族の感謝やみんなの役に立っているという声をたっぷりかける。

そして、一番大切なのは、毎日続けることを強制しないこと。完璧を求めるとお互い大変だからね。

「褒める子育て」に欠かせない「お手伝い」



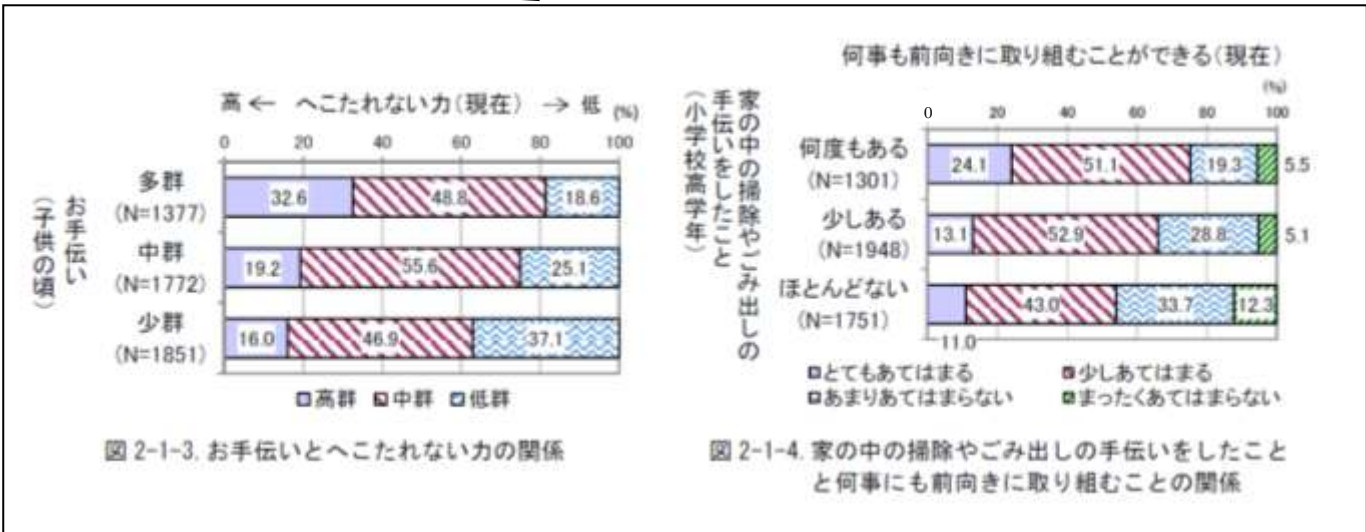
出典:子どもを成長させるお手伝い お手伝いをさせるための工夫とは?
(ベネッセ教育情報サイト <https://benesse.jp/kosodate/201606/20160616-1.html>)

「ほめる」が最も多く、次が「子どもにもできる、難しすぎないことを頼む」。「その他」では、「ありがとうと言う」など、感謝の言葉をかけることを挙げている方が多い。

子どもの年齢が高くなるほど、ついほめることを怠ってしまいがちだが、子どもは褒めてもらえるだけで嬉しいもの。安易にお小遣いやご褒美を与えることは控えよう。



子どもの頃お手伝いをよくしていた人は、へこたれない力が高く、何事にも前向きに取り組むことができる割合が高い傾向がみられます。



出典:独立行政法人国立青少年教育振興機構「子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」(平成30年3月)社会を生き抜く資質・能力をはぐくむ子供の頃の体験

ねらい

- お手伝いは、子どもの自主性や自己肯定感を育み、「人の役に立つ喜び」を体験することで、「やってもらっていることへの感謝」の心も育つことを理解し、お手伝いの内容や工夫について話し合ひましょう。

時間	進め方	留意点
10分	<p>はじめのことば</p> <p>「みなさん、こんにちは。本日は参加いただきありがとうございます。今日は『お手伝い』について考えましょう。」</p> <p>アイスブレイク</p> <p>「最初にみなさんで簡単なゲームを楽しみましょう。では、やり方を説明します。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆グループ内で順番にしりとり自己紹介をする。 ◆しりとり自己紹介の中に「わが家のお手伝いについて」を入れて話すようにする。 	<p>◇笑顔で親しみやすい言動を心がける。</p> <p>小道具として「お茶」やちょっとした「お菓子」があると、やわらかい雰囲気を演出し、話も弾みやすくなる。</p> 
30分	<p>3つの約束の確認</p> <p>「では、これから活動に入りますが、その中でみなさんに守ってほしい約束が3つあります。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆3つの約束を確認する。 <p>ワークショップ</p> <p>「まず、ワークシートをご覧ください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「こんなことはありませんか?」を読む。 <p><ワーク1></p> <p>「では、あなたがゆかさんの親だったら、どう対応しますか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ワークシートに考えをメモし、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に洗濯物をたたみながら、遊びのことを話す。 ・学校がある日のお手伝いのやり方を決める。 <p><ワーク2></p> <p>「わが子のお手伝いについて、うまくいったことや失敗したこと、心がけていることを交流しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ワークシートに考えをメモし、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「お米を研いであげる!」と言ってくれたが、忙しい時だったので断ってしまった。 ・「ありがとう」「助かったわ」と大げさに喜んだら、次の日も張り切って皿洗いをしてくれた。 ・カレンダーにシールを貼って、家族みんなで褒め、役立っていることを実感させるようにしている。 ・絶対に文句を言わない。簡単な内容にする。 	<p>◇「3 3つの約束」参照。会を成功させるために参加者全員で確認してもらう。</p> <p>◇家庭内の話題も出るため、信頼関係が大切であることを理解してもらう。</p> <p>◇「5 進行役について(1)子育てサロン型」参照。</p> <p>◇ワークシートにメモする時間がなければ、そのまま交流に入ってもよい。</p> <p>◇参加者が話しやすくなるよう、進行役が最初に困っていることや悩んでいることを話すもよい。</p> <p>◇時間配分を考え、全員が話す機会を設ける。</p> <p>◇代表で1~2人に話してもらう。</p> <p>◇時間があれば、資料2、3を配布し、読む。</p>
20分	<p>振り返り</p> <p>「今日の話し合いを聞いて、よいと思ったこと、やってみようと思ったことは何ですか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ワークシートに考えをメモし、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・お手伝いしながらコミュニケーションしたり、子どもを思い切り褒めて自信をつけさせたりしたい。 <p>「いろいろな意見の中には、今日からいかせそうなヒントがありました。私は○○さんの△△という意見がなるほどと思いました。話し合うことで気持ちが軽くなった方もいらっしゃるでしょう。これからも積極的にこうした機会を活用してください。実践カードを使って家庭でもチャレンジしてみましょう。」</p>	<p>◇意見をまとめたり結論を出したりする必要はなく、進行役が参加者と同じ目線で「こんなヒントをもらった」という話ができるもよい。</p> <p>◇資料1を配り、各家庭での実践を促す。</p>